



PROFILE

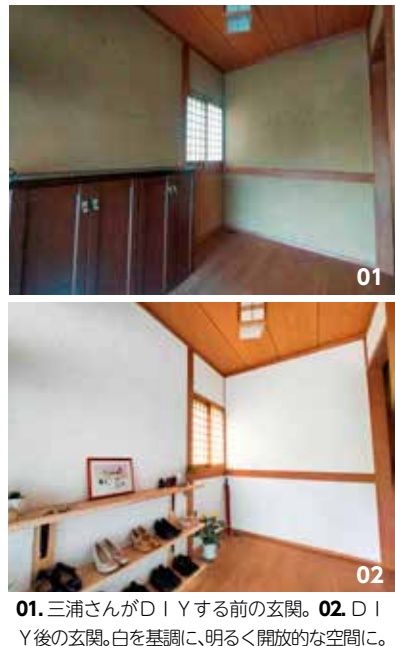
三浦 萌 さん

神奈川県 → 紀宝町鮎田

移住の時期：令和5年6月
仕事：地域おこし協力隊

03

移住者の声
REAL VOICE



01. 三浦さんがDIYする前の玄関。02. DIY後の玄関。白を基調に、明るく開放的な空間に。

Life after relocation



01・02. 大きな心の支えになった移住者交流会の様子。

この町で、もう一度歩き出す

02 移住者の声 REAL VOICE

動ける今を選び、たどり着いた場所。人のぬくもりに包まれて

私たちは、夫が高知県、私が徳島県の出身で、名古屋市で出会い結婚しました。結婚後は愛媛県に移り住み、その後、名古屋に戻って長く暮らしてきました。名古屋では、夫が自治会長を33年、私も民生委員を16年務め、地域の中で多くの方と関わってきました。

移住を考えるようになったきっかけは、家族のできごとと年齢です。「今動かなければ、この先は動けない」と感じ、思い切って環境を変える決断をしました。

紀宝町を知ったのは、移住に関する情報がきっかけで、正直、最初は不安もありましたが、実際に来てみると人の温かさに驚きました。

特に心強かったのが移住者交流会です。顔見知りができ、イベントなどで声をかけ合える関係が生まれ、「一人じゃない」と感じられたことは大きな支えでした。今では、地域の方に行事や暮らしのことを教えてもらいながら、自然に溶け込んでいると感じています。

現在は、防災や地域活動にも関わらせてもらい、少しでも地域の役に立てたらと思っています。自然が豊かなところや人の距離が近いこの町で、無理をせず、自分たちらしく暮らしていきたいです。

空き家から始まる、わたしの移住ストーリー

移住する前は、古民家をリノベーションした観葉植物店で働いており、その経験から空き家や古民家に興味を持つようになりました。

さらに、畑をやってみたいという想いが芽生え、よりゆとりとした地域での暮らしを意識するようになりました。そうした中で空き家バンク制度を知り、物件を調べるうちに、紀宝町の空き家対策に関わる地域おこし協力隊の募集と出会い、移住を決意しました。

初めて訪れた紀宝町は、海と山が身近にあり、自然との距離がとても近い町でした。時間の流れがおだやかで、人の温かさを感じたことが印象に残っています。

実際に暮らしてみると、DIYで少しずつ家に手を入れながら、自分らしい住まいをつくっていく楽しさがあります。一方で、冬の寒さや虫との付き合い、車中心の生活など、都市部との違いに戸惑うこともありました。

それでも、近所の人が気にかけて声をかけてくれる距離感は心強く、安心して暮らせる要素の一つです。空き家バンクは、「人と地域をつなぐ仕組み」です。迷っている方は、まず相談し、実際に足を運んで、町の雰囲気を感じてほしいです。

貸主の声

三浦さん居住物件の貸主
やまがみ ともひで
山上 智英 さん

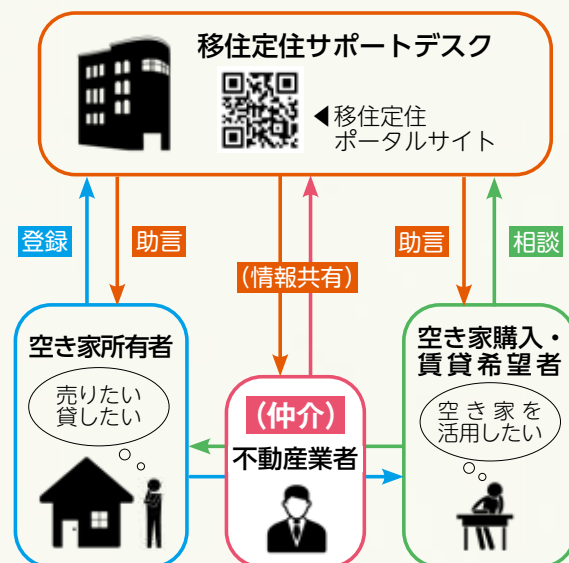
両親が紀伊半島大水害を機に新宮へ転居したため、住んでいた家が空き家になりました。掃除や庭の手入れを続ける中で町のホームページから空き家バンクを知り、放置せず活用できないかと考えました。

空き家のままでは維持費や管理の負担がかかりますが、賃貸にすることで家も長持ちし、収入にもつながります。

現在はよい方に借りていただき、DIYなどで手を加えながら大切に使用してもらい、家もきれいな状態を保っています。空き家は放置せず、貸して活用する方がよいと感じています。



◆空き家バンクイメージ図



※交渉や契約を当事者同士で行う直接型か、仲介業者を介して行う間接型を選択できます（間接型は成約時に仲介手数料が発生）。

PROFILE

もりした しょうぞう さん
森下 昇造 さん
かなえ 香苗 さん ご夫婦

愛知県 → 紀宝町平尾井

移住の時期：令和5年8月
家族：孫、妻の母、猫

MESSAGE

Q. 移住に悩んでいる人に一言

紀宝町は自然の豊かさと人の温かさがあり、移住者を支える制度や交流の場も整っています。仕事や家族、これからの暮らしを見つめ直し、自分らしい人生設計を描ける場所。迷っているなら、まずは一度訪れてみてください。